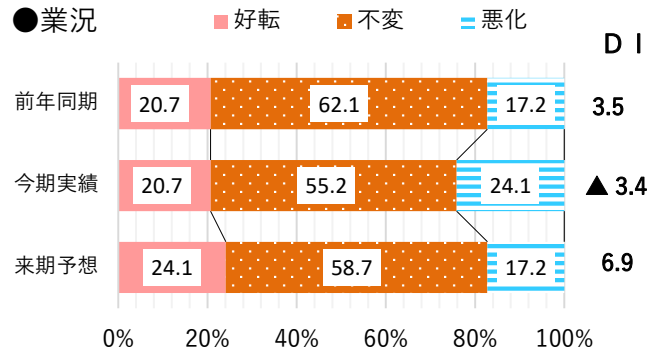


観光業

業況、売上、採算

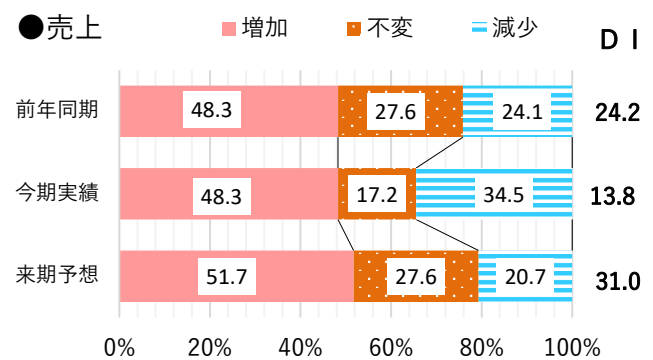
今期（2026.4～6）の業況DIは
▲3.4で、前年同期（2025.4～6）と
比べ6.9ポイント低下しました。

来期（2026.7～9）の業況DIは6.9
で、今期（2026.4～6）と比べ10.3ポ
イント上昇すると予想しています。



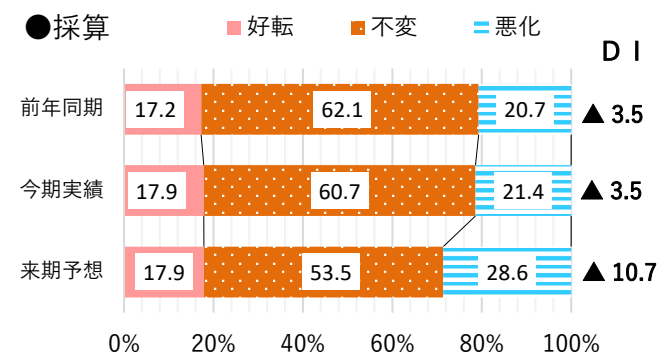
今期の売上DIは13.8で、前年同期と比べ
10.4ポイント低下しました。

来期の売上DIは31.0で、今期と比べ17.2
ポイント上昇すると予想しています。

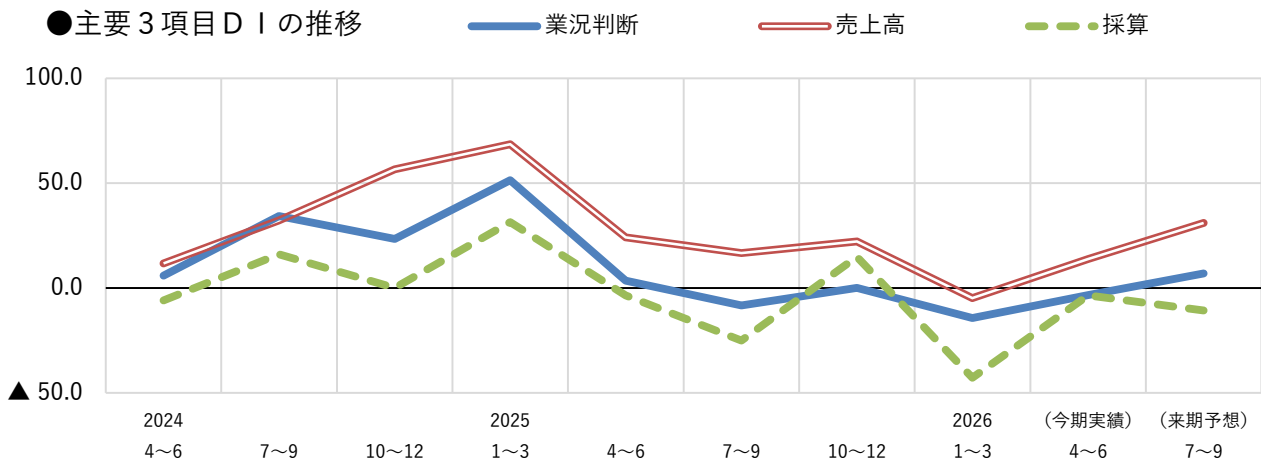


今期の採算DIは▲3.5で、前年同期と比
べ変化なしとなりました。

来期の採算DIは▲10.7で、今期と比べ
7.2ポイント低下すると予想しています。



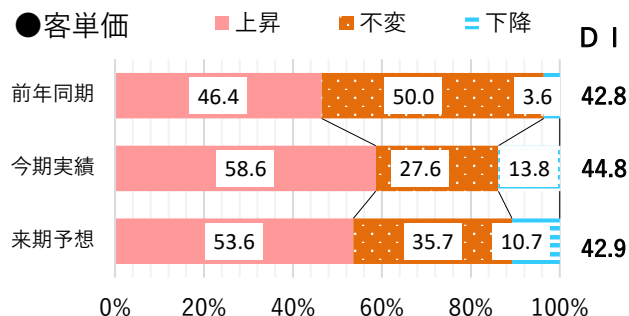
●主要3項目D Iの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

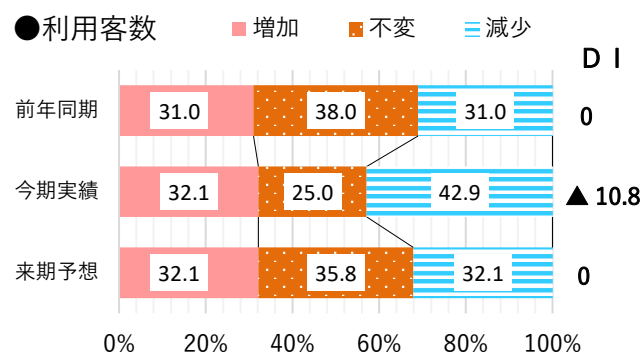
今期の客単価DIは44.8で、前年同期と比べ2.0ポイント上昇しました。

来期の客単価DIは42.9で、今期と比べ1.9ポイント低下すると予想しています。



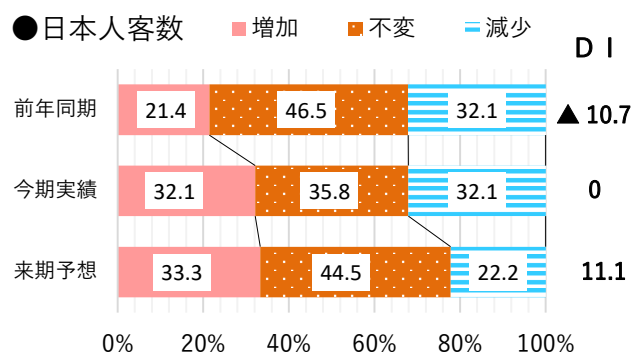
今期の利用客数DIは▲10.8で、前年同期と比べ10.8ポイント低下しました。

来期の利用客数DIは0で、今期と比べ10.8ポイント上昇すると予想しています。



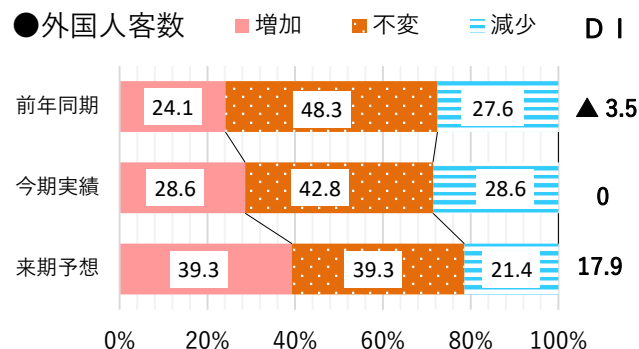
今期の日本人客数DIは0で、前年同期と比べ10.7ポイント上昇しました。

来期の日本人客数DIは11.1で、今期と比べ11.1ポイント上昇すると予想しています。



今期の外国人客数DIは0で、前年同期と比べ3.5ポイント上昇しました。

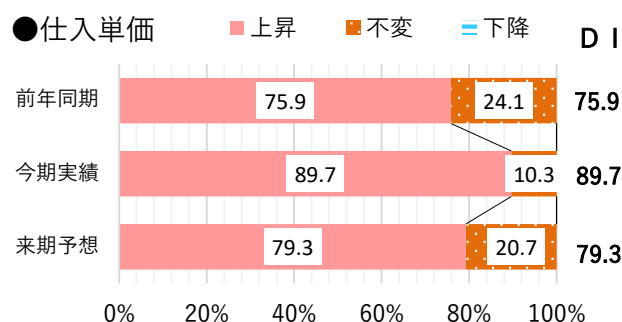
来期の外国人客数DIは17.9で、今期と比べ17.9ポイント上昇すると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは89.7で、前年同期と比べ13.8ポイント上昇しました。

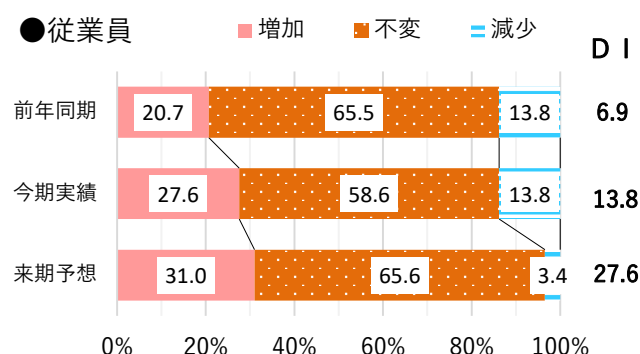
来期の仕入単価DIは79.3で、今期と比べ10.4ポイント低下すると予想しています。



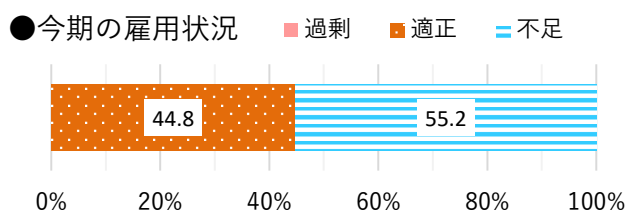
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは13.8で、前年同期と比べ6.9ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは27.6で、今期と比べ13.8ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は44.8%、不足していると回答した企業の割合は55.2%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、31.0%を占めました。

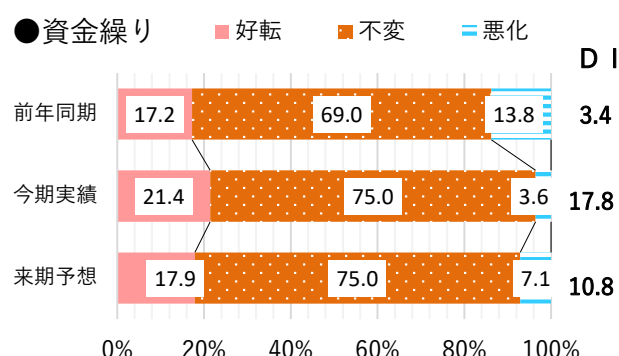
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	13.8%
	不足	13.8%
不変だった	過剰	0%
	適正	31.0%
	不足	27.6%
減少した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	13.8%

※回答総数29社

資金繰り、設備投資

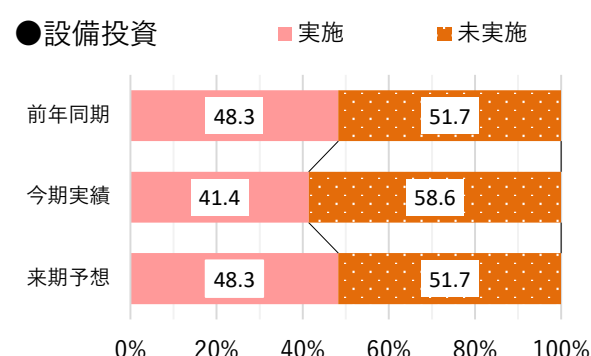
今期の資金繰りDIは17.8で、前年同期と比べ14.4ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは10.8で、今期と比べ7.0ポイント低下すると予想しています。



今期の設備投資は41.4%が実施と回答し、前年同期と比べ6.9%低下しました。投資内容は、1位が「付帯施設」、2位が「建物」「OA機器」（同位）でした。

来期は48.3%が設備投資を計画していると回答しています。

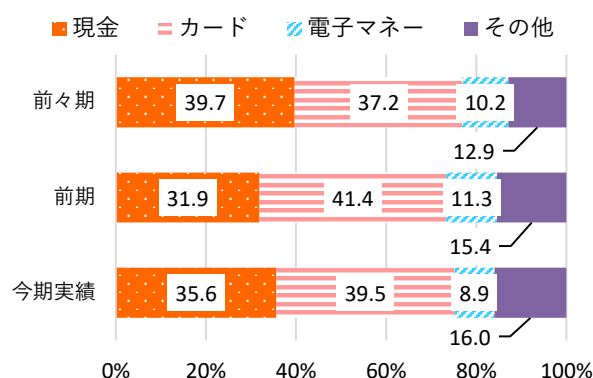


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位がカードで39.5%、2位が現金で35.6%、3位がその他で16.0%、4位が電子マネーで8.9%となりました。

その他で挙げられた決済方法は、旅行会社、ネットサイト、売掛金、銀行振込、クーポンの利用です。

●今期利用客の決済方法(%)

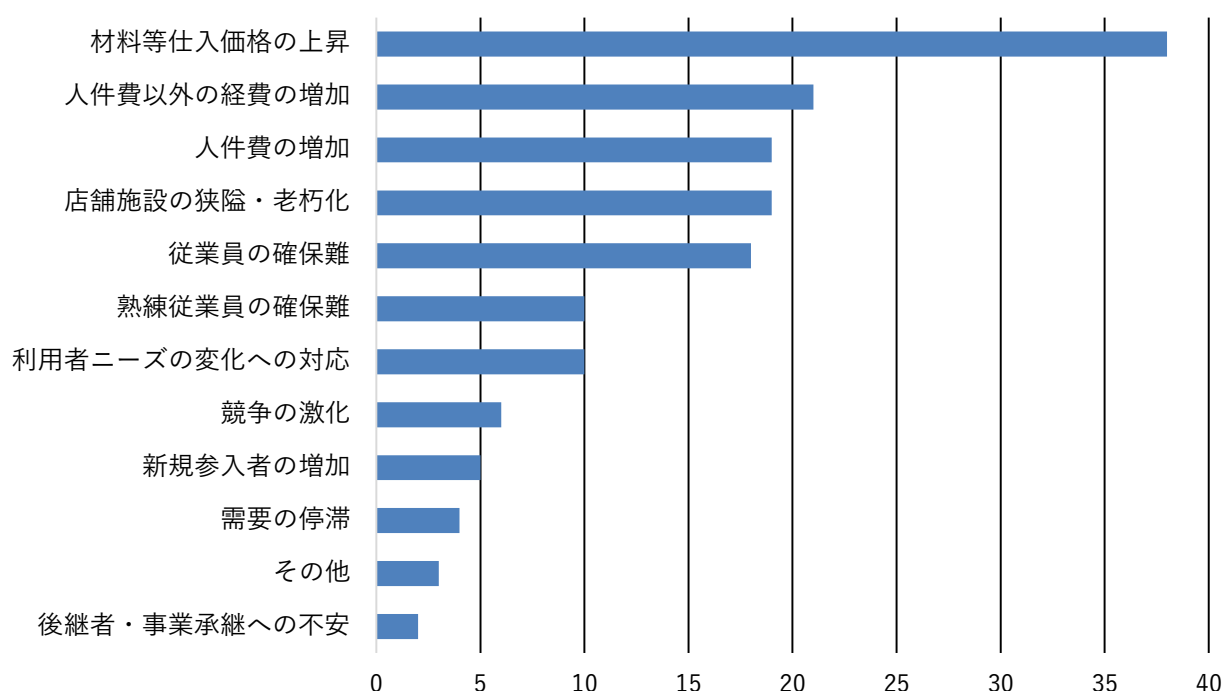


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は57.84%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「人件費以外の経費の増加」、3位が「人件費の増加」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 国内の利用客数が海外の利用客数に比べて約2倍増加した。(飲食)
- 中国系観光客の減少が見られた。(飲食)
- 中東情勢の影響で外国人観光客の大幅な減少を見込んでいたが、ほぼ不変で外国人観光客への売上を確保できた。対して日本人観光客は相変わらず多くなく、原材料高騰の影響もあり、売上単価の上昇があれども採算はギリギリであった。人手不足は続いているが、最悪期と比べると募集への応募に手応えがある。
(土産品)
- 団体観光中心の中国客が減少した穴を個人客が埋めた結果、人の流れが良くなった。(土産品)
- 販売商品の単価上昇もあり、売上は増加している。(土産品)
- 食材、資材、日用品の値上げが大きく、価格転嫁しても採算が取れない。(ホテル)
- 観光需要の増加と自社の努力もあり業況が好転した。(ホテル)
- 客室稼働率が減少し、売上に影響が出た。(コテージ・ペンション)
- GWの天候が前年同期と比較して悪かったので売上と客数がともに減少した。(水運業)
- 利益は前年並だが各種費用の上昇及び人件費増等によりコストが上昇し、業況が若干悪化した。
(娯楽業)

[来期の業況について]

- 外国人観光客数は堅調に推移し、売上の確保を見込んでいるが、原材料の値上げが年内は続くと思うので、採算の好転は難しいと予想している。外国人社員から一定の応募があるので今後の人手不足解消に期待している。(土産品)

- 本格的な観光シーズンに突入するため業況の更なる好転を予想する。（土産品）
- 観光シーズンに入ったので売上の増加を見込む。（土産品）
- 競合他社の新規出店等もあって売上の減少を見込む。（ホテル）
- この状況が続くと代替品も買えなくなる恐れがある。（ホテル）
- 売上を上昇できるよう努力するつもりである。（ホテル）
- 客室稼働率と客単価の減少を予想する。（コテージ・ペンション）
- 売上、客数が最も多い時期なので、業況の好転を見込む。（水運業）
- 費用の上昇の影響が続くため業況の好転は期待できない。（娯楽業）